

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスモンテ		公表日		令和8年4月30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	利用人数に応じて1階・2階の部屋を使い分けている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%		余裕のある対応を考えるとあと1~2名職員がいると尚良い。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	50%	50%	部屋の用途に沿った掲示をし、同じ場所に同じ物を置けるようにしている。	古い家で手を加えることができない為、バリアフリー化は十分ではない。構造化としても改善の余地は多々見られる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	クールダウンや障がい特性に応じて別室を活用している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	50%	50%		業務の担当や役割分担について職員会議で話し合い、改善を進めている途中である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%		評価表の内容をよく見ずに記入している方や意見まで記入する方が極端に少ない為、評価表だけでは意向の把握が十分でない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	83%	17%	月1回、職員全員が参加できる会議を設定し、意見交換をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50%	50%		実地指導以外に第三者が介入して評価する機会は現状ない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	83%	17%		研修については、年間計画が立てられていない為、職員が意識して研修に臨む機会がないのが現状である。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	法人ホームページにて公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	契約時にアセスメントを取り、定期的なモニタリングをもとに計画を作成している。	契約時に書面でのアセスメントが中心の為、聴き取り中心のアセスメントや年度ごとに更新した方が良い。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	67%	33%		計画策定会議などが十分にとれておらず、共通理解の面では不足している部分がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	83%	17%		ツール化からしなければいけない状況
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	83%	17%		実地指導にてニーズや課題に合わせてポイントを絞って良いと助言を受けており、今後の支援計画作成に反映させる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	行事などの活動は各職員が案出しと担当をもつようになっている	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	年単位で振り返りながらなるべく重複しないようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	特性や年齢、組み合わせの効果などを意識して環境設定やメンバー調整をし、個別・集団の支援を提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	83%	17%	ホワイトボードを活用した予定・担当の周知	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	83%	17%		送迎後に打ち合わせの時間を取ると勤務時間を超えてしまう
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	各児童の状況に応じて3ヶ月～半年でモニタリング期間を定めて実施するようにしている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	67%	33%		創作活動・地域活動については充分でないサービスガイドラインについて、職員の学習も必要と思われる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	写真・絵カード・具体物を活用して予定を選択するなどの工夫をしている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	管理者・児発管が中心に対象児と関わりの多い児童指導員も参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17%	83%		関わりをもちやすい学校や他事業所とは比較的連携できているが、他の期間に関しては体制が整っていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%		学校により対応に差がある
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0%	100%		移行の際の担当者会議に就学前に利用していた機関が参加するケースがなく、関わりを持っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	67%	33%	学卒後の事業所に求められた情報については、書面や電話などで提供するようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0%	100%		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0%	100%		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	83%	17%		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	メール・電話・送迎時など様々な形で状況を伝えている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	法人にてご家庭向けの研修案内が提供されている		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%		手渡して見てもらう形でのやり取りが多く、対面で計画を示しながらの説明が十分でない

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	メール・電話・送迎時など様々な形で相談や助言を行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0%	100%		父母の会や保護者会自体が存在しない
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	83%	17%	法人の苦情窓口や体制について事業所内に掲示している	こどもや保護者に対しては周知が充分とは言えない
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	ブログの更新（毎日） 行事予定の配布（毎月）	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	83%	17%	鍵付き書庫の活用	写真の扱いに関しては職員個人の携帯を使い、LINEアルバムでの管理になっている為、不安が感じられる。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	言語・視覚的ツール（写真・絵カードなど）など相手に伝わりやすい形で情報伝達をしている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0%	100%		地域交流の機会がない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	67%	33%		マニュアルは作成しているが、職員・家族への周知の機会を作れていない
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	避難訓練では消防署と連携した訓練（通報・消火）も取り入れている	業務継続計画について把握できている職員が少ない為、今後研修機会を設ける必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	服薬や疾患についての情報は、掲示やグループLINEなどで周知・共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	83%	17%	掲示やグループLINEなどで周知・共有し、適宜対応をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	50%	50%	避難訓練では消防署と連携した訓練（通報・消火）も取り入れている	安全計画の内容についての周知・研修は充分でなく今後、機会を作る必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	50%	50%		職員・家族ともに安全計画の周知ができておらず、周知や実効性のある連携方法の確認が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	83%	17%	ヒヤリハットに関する事案が発生した際は、その都度、職員間で対応について検討する時間を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	50%	50%		マニュアルや資料の提供などはあるが、研修会は行われていない。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	50%	50%	身体拘束の対象者はいない。今後、必要な場合はこどもや保護者への十分な説明をし、了承を得た上で計画に記載する。	身体拘束適正化の指針などについての周知・研修が充分でない為、今後の取り組みが必要。	